

2010年度・研究旅行奨励制度 【個人旅行】

名 前	坂本桃子	研究テーマ	イタリア山岳都市の保存と再生
目的地	国 名	地域・都市名	
	イタリア	ラツィオ州（ヴィテルボ県）、ウンブリア州（ペルージャ県）	

研究旅行の目的

戦後の日本社会は経済活動を重視し、それによって私たちの生活は豊かで便利になった。しかし、その反面山や林を切り開き、昔ながらの庶民の下町を破壊して進められる都市開発や商業施設の建設などによって、日本の国土から地域固有の景観や伝統文化、自然と共に生きる人間社会が消し去られようとしている。事実私が生活する身近な環境でも次々と古いものが壊され、新しい商業ビルや高層マンション、駐車場へと変えられている。私は以前から、そのような日本の街の姿に不快感を覚え、このような現代の都市開発に強い危機感を抱いてきた。一方、私がゼミで学んでいるイタリアの都市では、今なお古代中世起源の古い歴史的街並みが維持され、同時にそれらが現代の人々の生活の場として、すなわち現代の都市空間として機能しているという。このような日本とイタリアの都市の違いは何に起因しているのだろうか。そのような疑問から、今回私はイタリアの都市について研究調査を行う。特に、中世起源のイタリア「山岳都市」は自然に溶け込むように歴史的都市景観が保存されており、私は人々がその街でどのように街並みや建物を保存しながら再生しているのかを調査し、そこから日本が学ぶべき点を見出したい。

期待される成果

イタリアの都市研究については、日本では陣内秀信氏や竹内裕二氏によるものが知られているが、ガイドブックにも載っていない山間の小都市についての研究はこれまでほとんど紹介されていない。今回の私の調査旅行では各小都市の町役場、文化財監督局を訪れ、行政が使用している最新の町の都市住宅地図、文化財保護地図のコピーを入手する。また、現在も人々が居住している歴史的建造物の保存・修復の問題点や、特に特徴的な地図・建物に感ずる情報収集を行い、それに基づいて、住居外観・内観の写真撮影・スケッチ画作成などの現地調査を行う。これら、一つ一つの貴重な調査データの取得は、個人的で質の高い卒業論文のために必要不可欠な成果をもたらすものと期待される。

研究旅行日程表

旅行期間： 2011年2月9日～2月20日 [12日間]

	滞在地	行動・目的
第1日目 2月9日	ローマ	ローマ着
第2日目 2月10日	オルヴィエート ・市立考古学博物館 ・市立考古学博物館	資料収集 旧市街調査
第3日目 2月11日	チビタ・ディ・バーニョレージョ	資料収集、現地の人に見どころを訪ねる。 旧市街調査
第4日目	チビタ・カステッラーナ	文化財監督局を訪れ、話を聞く。

2月12日	・市役所訪問	旧市街調査
第5日目 2月13日	チビタ・カステッラーナ ・考古学博物館、市立図書館	博物館訪問・調査 資料収集
第6日目 2月14日	カルカータ	資料収集
第7日目 2月15日	カルカータ	現地の人に旧市街の見どころを訪ねながら廻る。
第8日目 2月16日	ペルージャ ・考古学博物館	博物館訪問
第9日目 2月17日	ペルージャ ・市立図書館	資料収集 旧市街調査
第10日目 2月18日	ペルージャ ・国立美術館	資料収集
第11日目 2月19日	ローマ	博物館訪問・調査
第12日目 2月20日	ローマ→福岡	移動

【報告書要旨・感想】

この研究旅行では、イタリア中部地方に、まるで自然に溶け込むように点在する中世起源の山岳小都市を訪れた。個々の小都市では、人々が、街並みや建物などの歴史的文化遺産を、どのように保存しながら再生しているのかを調査して歩いた。そのなかで、どの町にも共通しているように思われたのは、町の住民は家の中だけでなく扉を出た外、そして家の前の路地やまたその空間でさえ居住スペースとして機能させているということである。彼らは街並みも自己の一部として尊重しているように感じた。ある都市では町のいたるところにある文化財や中世から残る民家、建築物に説明書きの看板が付けられており、彼らが古いものを大切にしていることが理解できた。また、街のさまざまな建物には修復が繰り返された痕跡が見られたが、



そこに違和感はなく、むしろ町全体に景観的統一感があるように感じた。さらに、近年、町中の民家が職人や画家たちの工房と化している町もあった。それによって、古い町に新しい文化が生まれ、人口が減少していくにもかかわらず町が荒廃せず、今も生き活きとそこに在り続けることができるのだと感心した。このような山岳小都市には、アーティストの想像力を駆り立て

るような歴史的空間に沈殿する見えないパワーや魅力が存在し、それによって、人々が惹きつけられているのではないかと思った。このような驚きと発見は、実際にその場所を訪れ、その空間に身をおき、自らの足で歩き回り体験しなければ、理解できることではなかったと思う。(上の写真：中世山岳小都市・カルカータの全景)



◆ カルカータ 崖の上に建つ家



◆ カルカータの路地裏の広場

【報告書】国際文化学科室で閲覧できます。